



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会 発行日 2021年2月7日

№. 81

人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、
権威ある者としてお教えになったからである。

マルコによる福音書 1章22節



礼拝献花より

御言葉に生きる

あなたの御言葉は、わたしのものとなり わたしの心は喜び躍りました。

エレミヤ書 15章16節b

ルーター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『愛と権威と』

牧師 佐藤和宏

マルコ1章21節～28節

福音の日課に目を向けてまいりましょう。イエスは安息日に会堂に入つて教え始められたと始まっています。このほかに、そのような場面は数多くみられますから、安息日のたびにイエスは会堂で人々を教えられていたと想像されます。

「そのとき、この会堂に汚れた霊に取りつかれた男がいて叫んだ。(23節)「原文のギリシャ語によると、「そのとき」と訳されている部分は「すぐに いた」となっています。このことについてカトリック教会の兩宮司祭は、次のように書いています。「動詞の『いた』は『現れる』という意味で使われており、汚れた霊に取りつかれた男が『すぐに現れた』の意味であるとしても可能である。」(『主日の福音』 理由として考えられることは、汚れた霊に取りつかれた人は、律法によれば会堂での祭儀に参加できなかったということが挙

げられます。ですから、この人は会堂にいたのではなく、イエスが教えておられるのを聞いて「すぐ現れた」ということにちがいありません。イエスが示された「権威」は、法律の権威のもとにあつて束縛されていた人を解放したのです。この人は叫んで言っています。「ナザレのイエス、かまわないでくれ」と。おそらくそういう言わせているのは、取りついた汚れた霊なのでしょう。しかしそうであるなら、汚れた霊はその人を会堂内に足を踏み入れ、イエスの前に立たせることを避けたいはずではないかと思うのです。このように考えてみますと、この人を会堂内へと行かされたのは、汚れた霊ではなく、この人自身ではないかと思えて来るのです。律法によつて聖なる場から区別されていたこの人の思いは、人々と共にいたい、しかも主イエスが教えておられるなら、それを耳にしたい。このように願っていたのではないのでしょうか。その思いの強さが、この人を「すぐに現れ」させたのです。兩宮神父は次のように書いています。『汚れ』は男の本来の姿ではなく、霊が取りついた結果であり、むしろ、

社会から締め出された孤独を著す言葉だとしたらどうだろう。イエスが来ると、『すぐに』会堂へと現れた男の姿に、彼のひそかな願いがにじみ出ていると言えないだろうか。彼もいやされ、仲間と共に生きたいのだ。」(前掲書)

今日、汚れた霊に取りつかれた人が、イエスの前に「すぐに現れた」という場面から、私たちは本当は共にいたい、それを拒まれている現実に生きる人々の存在に気づかされます。私たちは礼拝に集まった者教会に属し、教会を支える者を仲間友としてとらえることでしょうか。それはそれで大切な交わりにちがいはありません。しかし仲間ととらえるその一方で、そこに集ある者を区別し、あるいは忘れている現実があるのもまぎれもない事実です。総会の準備をしていた中で、教会員の人数を報告しなければなりません。堅信会員は全体で161人ですが、そのうち103人が現任会員で、他任会員は11人。そして堅信会員の約30%にあたる47人が別帳会員となっています。見逃されてはならないことは、現任会員、他任会員と共に、別帳会員を

含めて教会員と規定されているという事実です。ところが、私たちはその区分を誤解し、別帳会員をまるで教会員でないかのように扱ってきたのではないのでしょうか。しかし、本来その誰もが共に生きてきたはずであり、少なくとも主ご自身はそれらの方々と、共に生きたいと願われているにちがいありません

第二の朗読でお読みいただきました日課に「愛は造り上げる。」とありました。律法の規定は、会堂に集える者とそうでない者を区別するのですが、愛はその区別を取り払うのです。律法の理解は、偶像に供えられた肉を食することが人を汚すと教えるのですが、愛はその弱さに寄り添うのです。主イエスの愛に基づいた権威によつて、私たち自身あらゆる束縛から解放され、安心して日々を生き始めることができるのです。そして、解放された私たち教会の交わりは、すべての方々に寄り添つて、主イエスの愛をあらゆる人々に表して、本来、私たちの教会の交わりに与えられた使命を取り戻して生きる群れとされるのです。

(顕現後第4主日)

○田○

【前月号から続き】 日曜日には自宅近くにあった米子教会（日本キリスト教団）に通い、私、和○、子どもたちも、年配の牧師ご夫妻、会員の方々とも親しくお付き合いができて感謝でした。

ある年のクリスマス会、創作劇に和代が出演し、子どもたちは客席で見っていました。和○の役柄で途中で亡くなるシーンがあったのですが、あまりの熱演（？）だったので、子どもたちが泣きだすハプニングが起こりました。私は慰めるのに必死でした。

転勤した先々で、ハプニングとも言える出来事が次々と起こり、その時は「困った、どうしよう」と悩むこともありましたが、今思えば笑い話のようなことです。

しかし、当時は「これから大丈夫だろうか、どうなるのか、3人の子どもたちは順調に育ってくれるだろうか・・・。」そんなことばかりが頭をよぎることが多かったのです。

私の周りには、私と同じように転勤者も多かったのですが、特に環境の違いに耐えられず奥様が精神的に不安定になった、離婚した、奥様が実家に帰ってしまったとの話が聞こえてきました。子育てなど私も妻も初めてのことなので、心配と不安が入り混じることばかりでした。ただ、転勤のたびにその地域の教会に通い、牧師家族、会員の皆様と親しくお付き合いできたことが、何にも代え難い喜びでした。

それから、私の転勤は岡山県

熊本県、東京都、宮城県、神奈川県と続きました。自分がすっかりと地に足をつけておかなければ、家族の皆は不安の毎日になるだろうと、自身に言い聞かせていました。

いま、子供たちは良き伴侶を得、

独立し、いま再び私と和○の二人きりの生活となり、第二の新婚生活となつていきます。そう、甘くはありませんが、ひとつ言えることは、中学校のときに通い始めた教会のCSで教えてもらった聖書箇所、「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶ係、異邦人への伝道など」が強く反映されているように思います。21世紀を生きる私からすると、キリストの教えやパウロの神学には親和性を感じるのです

ぶよように手入れをなさる。：わたしにつながっていないさい。わたしもあなたもつながっていない。」（ヨハネによる福音書第15章1節）
私は、自分自身を出来ないクリスマスチャンだと痛感しています。そうであるならば、どんな場合でも、どんな苦しみやどんなアクシデントが身に起ころうとも、余計に「まことのぶどうの木」に、結びついていなければならぬと感じています。
これからはますますその思いを大切に、日々短くなる自分の人生を歩み続けたいと願います。すべての方々に感謝をしながら。(完)

A氏との 往復書簡 2

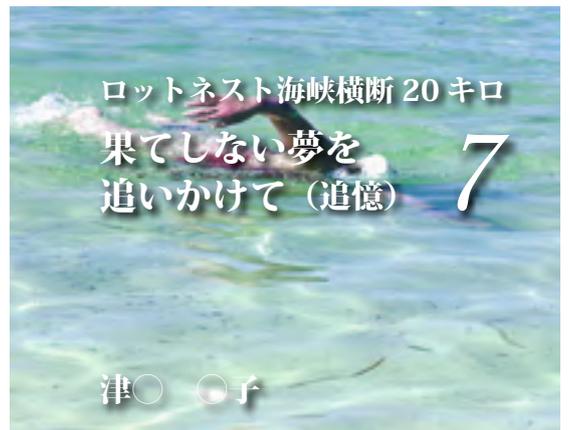
A氏 福音の朗読では、今回は「婚礼の祝宴」のたとえでしたし、前回「ぶどう園と農夫」のたとえでした。この二つとも、イエスが話した説話伝承が基になっているのです。うが、その後の最初期キリスト教会での宣教上の困難（ユダヤ教との関

係、異邦人への伝道など）が強く反映されているように思います。21世紀を生きる私からすると、キリストの教えやパウロの神学には親和性を感じるのです。最初期キリスト教団の思いが反映された例え話（私の誤解であれば申し訳ありません）からは腑に落ちるものが殆どありません。福音書にはもともと素晴らしい部分が沢山あるのに、たとえの箇所が朗読に選ばれているのは何故でしょうか。

牧師 いろいろ考えられると思いますが、個人的には「神の御心」と受け止めることも必要かと思えます。Aさんが指摘しておられるように、初期教会の事情が入り込んでいる箇所も少なくはないと思われます。それは確かに、人間の事情なのですが、その人間の事情にさえ神の働きがあると云えるのも確かなことです。
例をあげて考えてみましょう。イエスが敵の手に捕らえられ、十字架の死を遂げられた一連の流れは、人

の目には敵対者(人間)の思いに従ったことのように映りました。弟子たちが逃げ出したのも、そのような理由からでしょう。ところが、イエスの敵対者たちが、イエスを殺そうと相談をするのですが、彼らは「祭りの間はやめておこう」(マルコ14章2節)と考えていました。しかし、十字架の出来事は「祭りの間」に起こったのでした。祭りの間(逾越祭)である必要があったのです。つまり、人の業にみえることにさえ、神の御心が働いているのです。ですから、初期教会の事情が紛れ込んでいたとえをはじめとした聖書の言葉にさえも、神の御心を聞いていくことは大切なのです。

今、世界は困難の中にあります。収束を願う一人ですが、コロナ禍がただ過ぎ去ればいい、なくなればいいとだけ考えるとき、人は「コロナ禍」にある現状をただ否定的に見、また意味のないときと捉えてしまうでしょう。しかし、その中であつてこの困難にさえ、隠された神の御心を聞いていくことも必要なのです。つまり、困難の中に神が与えられた「意味」を知ることが大切なのです。



ゴールだ、ゴールだ、バンザイ。大貫さんが出迎えてくれた。9時間07分54秒。その辺にいた人たちと手当たりかまわず握手したり、飛びついたり、頬ずりしたりして。写真インタビュー、「Japan, 60years old」と放送している。水から上がって、まだ泳げる、まだいけると感じて。諦めないで自分を信じてやり通してよかった。実った。

レースが終わって、伴走船からコーチ、マネージャーが、荷物を持って引き上げてきた。抱き合つて喜んだ。大貫さんから手作りの魚のレイを渡され、皆さんからの祝福のメッセージを一枚、一枚読みながら、ど

こどうしてこんなに集めたのか。セームと合わせて40人以上のサインがあった。レイアウトをしてくれた人、スイヌク(水曜日)の尾辻コーチの練習会)仲間、海人くらぶの会員さんと知人の顔が浮かび、涙が止まらなかつた。

表彰式までの間、私はコーチに荷物を背負ってもらい、手を引かれて、今までよく練習したこと、精神的に苦しかったときのこと、コーチを信じ、続けてやり遂げたことなど、ともに涙しながらシャワー場まで歩いた。もうこんなことは、こんなに多くの人に支えられて成し遂げる出来事はないであろう。

表彰式ではグリーンのサイン入りのセームを両手いっぱい広げて、高く背負い、首にレイを



かけて台に上がった。「○○○○○、Come from Japan, 60 years old, First solo」と、はつきり聞こえた。ソロの申込みが156人で、完泳者は132人中128人。女性35人中35人。参加者は2566人と現地の新聞に出ていた。私は完泳者の中で最高年齢であった。

翌日、一緒に来た海人くらぶのリーダー仲間は、再びロットネスト島にサイクリングに出かけた。私は一人コストロービーチのレース出発点を眺め、海岸沿いに隣の町まで歩いた。あれから16年、奄美の大会は泳ぎ続けて20回を迎えた。来年は?。(完)

総会が開催されました。

まだまだ新型コロナウイルス感染拡大がおさまりません。その中にあって、教会総会の開催とあり方について、年末に臨時役員会を開いて協議し、例年から少し形を変えて開催することになりました。第一に、開催曜日の変更です。日曜日は2つのグループに分けての礼拝であること、礼拝に引き続いては昼食の問題（感染予防等）が想定されることから、土曜日の午前中に開催することになりました。第二に、（感染予防のため）総会を短縮する必要があると判断し、役員選挙を前もって実施することになりました。急遽決まったこともあり、戸惑われた方もおられたかもしれませんが、大変失礼しました。

1月30日（土）10時より、教会定期総会を開催いたしました。出席27、委任39で、現任堅信会員の過半数に達し、総会が成立。諸報告の承認に続き、協議事項では今年度の主題「御言葉に生きる」及び主題聖句「あなたの御言葉は、わたしのもの



となり／わたしの心は喜び躍りました。」（エレミヤ書15章16節b）が承認されました。その他、宣教計画の確認がされ、行事計画、予算案が承認されました。

総会の終わりに、選挙管理委員長の〇〇谷〇子さんから、選挙結果が報告されました。投票期間は1月10日（日）から23日（土）まで。教会に

設置された投票箱に投票するか郵送による投票（23日までに到着したものを有効）としました。有効投票総数は53票でした。（無効票0）

新役員として選出されたのは、次の方々です。〇田〇一郎兄、〇田〇郎兄、〇村〇夫兄、江〇〇子姉、山〇〇子姉、〇野〇之兄、〇木〇子姉、以上7名です。どうぞ、よろしくお

願いたします。

現在、礼拝を2グループ制で実施しており、役員就任式は2月7日、14日の礼拝にて、それぞれ執り行われます。また定例役員会は、14日礼拝後に開かれます。

また、今回役員を退任された〇谷〇子姉、永〇〇子姉に心より感謝を申し上げます。（佐藤）

■女性会からのお知らせ

1 藤が丘女性会

例年ならば1月に女性会総会が開催され、その年の役員が選出されるが、今年度はコロナ禍のために開催を見送り。今年度役員は引続き2020年度役員が継続。

2 東教区女性会役員会報告

①東教区女性会総会

現在のコロナ状況を鑑み2月の総会を書面による評決での実施決定。各女性会の正議員50名の参加で郵送で行う。

尚、各教会への資料については1月末までに発送予定。

②世界祈祷日について

今年度も開催見送り。

③星くずの会より

マスクの献品の依頼

②、③の詳細については女性会役員までお問い合わせ下さい。

又、ご意見やご要望がございましたら、女性会役員にお知らせください。

1日も早く女性会が開催されます

よう役員一同心よりお祈り申し上げます。

会長 〇田〇子

副会長 〇川〇子

会計 小〇〇恵子

書記 江〇〇子

■教会の動向



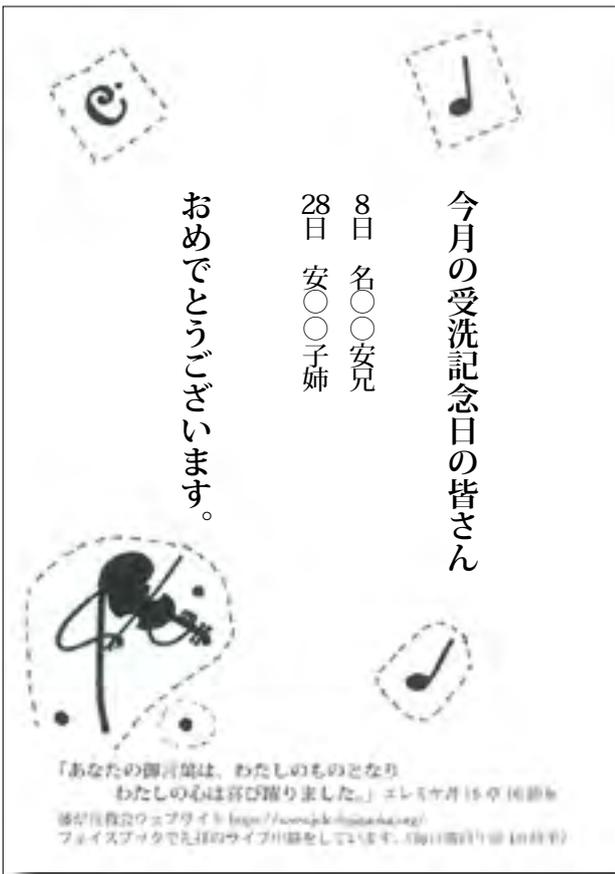
1月の教会は、1日の新年礼拝で始まりまし。礼拝後、○原○輔さん、○さんご夫妻のご長女夫妻宮○
○太朗さん、○かさんの長男○
くんの新生児祝福式をいたしました。幼い命とご家族が主の祝福のうちに守られますように。5日には受洗後の学び、6日は聖研、7日にはリモートでの勉強会がありました。10日は、礼拝後定例役員会が開かれました。主に教会総会の準備をそ

の内容としました。12日に純戦後の学び、14日にはリモートでの勉強会、16日には総会報告書製本作業をいたしました。17日は礼拝後総会報告書の発送作業をいたしました。19日に受洗後の学び、20日は聖研、21日はリモートでの勉強会、23日は対面にて勉強会がありました。24日は礼拝後、選挙開票作業、ライブ配信確認作業がありました。26日に受洗後の学び、そして30日に教会定期総会が開かれました。
皆さんとご家族の健康が、主にあって守られますように。(佐藤)

今月の受洗記念日の皆さん

8日 名○○安兄
28日 安○○子姉

おめでとーうございませす。



「あなたの御言葉は、わたしのものとなり
わたしの心は喜び躍りました。」エレミヤ書15章16節
福音堂ウェブサイト <http://www.fujigaokalc.org/>
フェイスブックで日々のライブ配信をしています。(毎日朝7時 18時)

■牧師室より

私たちはこの一年、大変困難な時期を過ごしてまいりました。私たちが直面した苦難は、これまでに経験のない「礼拝の休止」「諸集会の休止」を決定させるほど、大きなものでまいた長期にわたって、私たちを苦しめています。少しでも早い収束が与えられることを祈りましょう。

いつまで続くかわからない困難の中にあって、私たちは不安と恐れに包まれています。しかし、そのような時だからこそ、御言葉に聞いてま

いりたいと思います。2021年度も引き続き「御言葉に生きる」を主題といたします。一方、主題聖句をエレミヤ書から採用いたしました。「あなたの御言葉は、わたしのものとなり／わたしの心は喜び躍りました。」(15章16節b)

エレミヤ書には、5つのエレミヤの告白(訴え)と言われる箇所が見いだされます。苦難の中で、エレミヤは主なる神に訴えているのです。右の言葉は、その訴えの中の一節です。自分自身が思い通りにあるから「心は喜び躍る」と言っているので

教会ツイートから

「(主は) 打ち砕かれた心の人々を癒し／その傷を包んでくださる。」詩編147編3節

打ち砕かれた心を癒し、その傷を包むのは、ただ主なる神であるとされています。決して私たちが手に入れる何ものによつてではないのです。ただあなたの主が癒し、傷を包みます。その主は、今日も共におられます。

はありません。苦難を脱したからではありません。苦難の中にあつて、状況は変わらないにもかかわらず、御言葉が喜びとなったと言っているのです。困難の中にあつて、先行きも見えない状況が続いています。そのような今だからこそ、「御言葉に生きる」。御言葉に心を喜び躍らせる一年をご一緒にしたいのです。
「緊急事態宣言」が延長されましたが、礼拝を継続いたします。不安な方、体調が悪い方、公共交通機関を利用される方、どうぞ無理はなさらないでください。(佐藤)